

【p64～p67】 最後の指揮台 —朝比奈隆—

1 資料活用にあたって

- オーケストラの説明については、事前に音楽の鑑賞の学習と関連させる方法もある。
- 朝比奈隆の生き方を支えた「プロ指揮者としての自覚、仕事場としての舞台」に焦点をあてるならば内容項目はC（14）として扱い、「より高い目標を立てて、理想に向かって前進していこうとする」朝比奈の姿に焦点をあてるならば、内容項目はA（5）で扱う。

2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、内容項目をC（14）を想定して示している。
- 主人公の変化を問う資料ではなく、コンサートマスターの主人公（私）を通して朝比奈隆の生き方を貫くもの考える資料であり、朝比奈隆の生き方を見つめているコンサートマスターの「私」の立場で場面を捉えていく。（子どもが「私」になって考えられるように発問を工夫する。）
 - 場面は「楽屋」「演奏会舞台」「回想」から成り、時系列で整理すると次のようになる。
 - ・時系列①：P 6 6 の 1 行目～1 7 行目 回想の場面
 - ・時系列②：P 6 4 の 1 1 行目～P 6 5 の 2 0 行目 演奏会舞台（演奏前半）の場面
 - ・時系列③：P 6 4 の 1 行目～9 行目 演奏前半終了後の楽屋の場面
 - ・時系列④：P 6 6 の 1 9 行目～P 6 7 の 1 4 行目 演奏会舞台（演奏後半）の場面

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 「オーケストラ、それは我なり～朝比奈隆 四つの試練～」、中丸美繪、文藝春秋、2008年
- ・ 「朝比奈隆のすべて～指揮生活60年の軌跡～」、朝比奈隆他、芸術現代社、1997年
- ・ 「朝比奈隆～長生きこそ、最高の芸術～」、木之下 晃、岩野 裕一、新潮社、2002年
- 朝比奈隆について
 - ・ 朝比奈氏は大阪フィルハーモニー交響楽団（通称：大フィル）の常任指揮者から音楽総監督となり、一つのオーケストラのトップ指揮者を54年間務めていた大指揮者。神戸市名誉市民顕彰や文化勲章を受章している。
 - ・ 1908年生まれ。関東大震災で焼け出された後、祖母から焼け残りの中古のバイオリンを買い与えられたことから、音楽に興味を示すようになった。その後、京都帝国大学（京都大学）法学部に入学し、ビオラ、バイオリンを担当した後、指揮をメッテル氏から学んだ。初めて指揮者としてステージに立つ事が決まり、メッテル氏を訪ねた時、「何十人ものプレーヤーをまとめる人間が人に教わるとは何事だ。自分でしっかりと考えなさい。」と家にもいれてもらえなかったが、演奏を聴いた後、「短く言えば、朝比奈さん、バンザイです。」と称賛されたというエピソードが残っている。また、「一日でも長く生きて、一回でも多く舞台に立て」というのも、メッテル氏の言葉である。卒業後、音楽の道にまっすぐ進むのではなく、阪神急行電鉄（阪急電車）に勤務。電車の運転手や車掌やデパートに勤めていたエピソードも興味深い。
 - ・ 指揮者デビューは、1940年。翌年に結婚し、神戸市灘区に住み始めた。指揮者としての足跡は、世界的に有名である。年末によく演奏される「ベートーヴェン交響曲第9番」は251回も指揮をしている。交響楽団のメンバーからは「オッサン」と親しみをこめて呼ばれ、人間味あふれる面があった。朝比奈氏の曲の解釈、魅力あふれる人間性に思いを寄せる人も多く、演奏会の人気が高く、チケットが即完売となることもよくあった。
 - ・ 本資料でとり上げた2001年10月24日の演奏会が、最後の舞台となった。演奏会后、体の不調を訴えて、入院。同年12月29日に、生涯現役のまま93歳で亡くなった。

4 展開の具体例

最後の指揮台 —朝比奈隆—

- ・ **主 題 名** ・一つの仕事にかけた姿 C (14)
- ・ **資料の概要** ・93歳の指揮者朝比奈隆が体調のすぐれないなか舞台に立つ。コンサートマスターである「私」は体調を気づかいながらも、真摯に音楽に向き合う朝比奈の姿に感動し、日頃からプロとしての高い意識を持ってスコアの勉強や練習にのぞむ朝比奈の姿を想起する。演奏後、指揮台に駆け寄る「私」であったが、そこにはいつも通り背筋をぴんと伸ばし観客の拍手に笑顔で応える朝比奈先生の姿があった。
- ・ **ね ら い** ・作曲家、朝比奈の姿に感動する「私」を通して、一つの仕事に取り組む意義を理解し、働くことを通して社会に役立とうとする道徳的心情を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	オーケストラの指揮者はどんな仕事をする人でしょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら、黙読する。 (演奏会舞台上)	<p>一步一步ゆっくりと指揮台に向かう朝比奈先生を見た私は、どんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯をかけた仕事場に向かう姿は、いつも緊張感があるな。 ・先生、お客様のために今日も素晴らしい演奏をしましょう。 ・先生のこの姿をいつまで見ることができるのだろう…。
	・指揮台に向かう朝比奈先生の姿を見た時の主人公の気持ちを考える。 (回想場面)	<p>「毎回同じでも、それが新しい発見なんだよ…」という朝比奈先生の言葉を聞いた私は、どんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九十才をすぎているのにすごい気力だ。 ・自分の仕事に毎回真剣勝負で指揮にのぞむ姿は、プロの鏡だ。 ・私も同じプロとして、この姿勢を見習いたい。
	・スコアから新しい発見をする朝比奈先生の姿に触れた主人公の気持ちを考える。 (演奏会舞台上)	<p>朝比奈先生の姿がなみだでかすんだ私は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生、チャイコフスキーの魂が伝わる演奏でしたよ。 ・死力を尽くして演奏をやり遂げられたんですね。 ・先生、もうこれで十分でしょう。
	・朝比奈先生の姿が涙でかすんでいる主人公の気持ちを考える。	<p>「これなのだ…」とつぶやきながら、私はどんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これなのだ、本当のプロのすごさは。 ・これなのだ、生涯をかけて仕事に取り組む人間のすばらしさは。 ・これなのだ、先生が一番大切にされているのは、お客様なのだ。 ・これなのだ、妥協のない仕事とは。
観客の拍手に応える朝比奈先生の姿を見た主人公の心を考えさせる。		
・自分の考えを書く。	自分の考えを道徳ノートに書きましょう。	
終 末		

「休憩中の楽屋」「回想」「演奏会舞台」の場面の種類と時系列を確認させておく。

指揮台に向かう朝比奈先生を心配するとともに、舞台にかけるプロの意識を主人公が感じていることをおさえる。

朝比奈先生が曲に向き合う真摯な姿から、プロの意識を主人公が感じていることを再度おさえる。

体力、気力の限りを尽くして指揮を終えた朝比奈先生を主人公が感無量で見ていることをおさえる。

演奏後も凛とした姿を見せる朝比奈先生の姿を見て、仕事に取り組むことの厳しさとすばらしさを感じている主人公の心情をおさえる。